



ダイヤモンド
シティ
小美玉
見つける。
みがく。
光をあてる。

小美玉の今を伝えるマガジン

広報
**おみた
たま**
第192号

2022年
March

3

contents

[特集] まちの灯台 羽鳥駅	2-7
気になるあの人	8
わだい	9-11
TOPICS	12-14

まちの灯台
羽鳥駅

Special Feature



広報
**おみ
たま**
第192号

羽鳥駅 まちの灯台



1895年(明治28年)に開業して今年で127年。羽鳥駅は姿を変えながら、陸の玄関口として、東口と西口の人の流れをよりスムーズにし、市外からの人の往来も促しています。



今月の表紙



羽鳥駅は、その名にちなんで鳥が翼を広げた立体感のある姿をしています。屋根や階段の手すり、壁面の間接照明が効果的で、「まちの灯台」にふさわしく、夕暮れに浮かび上がります。

今年で開業127年

日本の鉄道は、1872年(明治5年)9月12日に新橋駅―横浜駅間で正式開業したのが始まりで、羽鳥駅はその23年後、1895年(明治28年)12月1日に開業しました。常磐線は、常磐炭田の石炭輸送のほか、日立鉱山、日立製作所関連の人員・物資輸送で、戦前・戦後を通じて国内経済発展に欠かせない存在となりました。羽鳥駅は今年で開業127年になります。

安心安全な「まちの灯台」

これまで東口からの利用者が東京方面の電車に乗る場合、階段を2回昇り降りする必要がありました。人道橋を一度昇り降りし、さらにホームの階段を昇り降り、施設のバリアフリー化と、西口の交通混雑が課題となっていま



鉄道建築協会賞

羽鳥駅新駅舎が、一般社団法人鉄道建築協会によるコンテストで入賞しました。独特の立体感がある建築で、階段手すりと広場からの間接照明によって、夜間でも優しい暖かな光が人々を迎え入れる空間を演出されています。



いばらきデザインセレクション

茨城県の優れたデザインを選ぶ「いばらきデザインセレクション2020」（茨城県主催）で「選定」という高い評価を受けました。まちづくりの拠点として、地域への思いと未来への希望が伝わる美しい駅と評されています。



駅がいつも**綺麗**。
駅員さんも**丁寧**です。

高校から羽鳥駅を利用し、大学も都内まで電車通学。就職して一旦は都内に住みましたが、今は小美玉から通っています。新しい羽鳥駅はいつも綺麗で、気持ち良く使わせてもらっています。駅員さんも丁寧です。

東京まで電車通勤
松田理紗子さん

通勤とテレワークをうまく使い分けながら、東京の会社に勤務する松田さん。車内の移動時間は情報収集と仕事に活用。小美玉の魅力創造発信活動に触れ「さらに地元を好きになる」と語ってくれました。



市内唯一の
鉄道駅

クリスマスフェス(こころふれあう羽鳥の会主催)が東口広場で開催

した。
そこで、2014年度に測量・地質調査を始め、JR東日本との協定を結び、2017年度から橋上駅舎、東西自由通路、エレベーター、トイレなどの工事が始まりました。
2020年2月16日、エレベーターと通路で東西エリアを結び、鳥が翼を広げたような屋根を持つ、新しい羽鳥駅舎が完成しました。2021年3月31日には東西駅前広場も完成。羽鳥駅周辺を「まちの灯台」に見立て、いつも明るく安心安全な場とすることを目指し、便利で賑わいのある拠点が誕生しました。



地域に 愛される駅に

1895—2022



「明るく楽しく」がモットー

石岡駅長は羽鳥駅も管轄しており、羽鳥駅の直接的な運営は（株）JR東日本ステーションサービスに委託しています。

駅社員に伝えている信条は「明るく楽しく」。自分たちが楽しくなければ、お客さまに楽しい旅行をお届けできません。そのためにはまず自分から駅社員に毎朝声掛けし、体調を確認しながら顔を見て話すことを大切にしています。

私自身、旅好きです。旅先でも駅を見て、どんなサービスをしているのか必ず見て、駅運営の参考にしています。

興味を持つ企画を

駅に興味を持ってもらい、訪れでもらうため、地域の皆さまと連携して、さまざまな企画をしたいと思っています。小学生の社会科見学や、中学生の職場体験では構内放送してもらおうなど、いろいろ



JR東日本石岡駅長 今橋武弘さん

羽鳥駅のあゆみ

- 1895年12月1日 (明治28年) 日本鉄道の駅として開業
- 1906年11月1日 (明治39年) 日本鉄道が国有化
- 1987年4月1日 (昭和62年) 国鉄分割民営化によりJR東日本に
- 2001年11月18日 (平成13年) ICカードSuica利用開始
- 2006年3月3日 (平成18年) 自動改札機導入
- 2020年2月16日 (令和2年) 東西自由通路及び橋上駅舎が全面利用開始
- 2020年10月23日 (令和2年) 一般社団法人 鉄道建築協会賞入選
- 2020年12月25日 (令和2年) いばらきデザインセレクション選定

地域の結びつきを大切にする駅に



(株)JR東日本ステーションサービス
水戸支店 土浦駅務管区
駅長(羽鳥駅・岩間駅)

山田 信一 さん

駅のホームやトイレなど、構内をこまめに巡回するようにしています。お客さまが尋ねられることの多くが、自動券売機でのきっぷ購入方法です。操作は慣れていないと戸惑うのが当然ですので、遠慮なく駅係員にお尋ねください。地域との結びつきを大切に、何でも相談に乗れる駅を目指しています。



父と通った日々も、今は良き思い出。

通学に5年間羽鳥駅を利用しましたが、間もなく卒業。眼鏡をかけた駅員さんがフレンドリーに話しかけてくれるのが嬉しいです。転動するまで父も電車通勤だったので、同じ電車で通ったことも、今は良い思い出です。

茨城工業高等専門学校5年 高梨心雅 さん

4月から市内企業に就職が内定。これから車通勤で駅利用が無くなることに「少し寂しい」と高梨さん。生き物が大好きで、空気がきれいな小美玉市の環境をいつまでも大事にしたいと語ってくれました。



⑤	③	①
⑥		
⑦	④	②

- ① 1978年羽鳥駅ホーム
- ② 1990年羽鳥駅西口
- ③ 1972年羽鳥駅前商店街
- ④⑥ 1998年(平成10年1月16日)常磐線を蒸気機関車D51 498が走り羽鳥駅に停車
- ⑤ 1972年(昭和47年)羽鳥駅西口
- ⑦ 1990年(平成2年)の羽鳥駅ホーム

ろな体験をしていただけていると思います。駅をご利用いただく地域の皆さまが喜ぶ表情が私たちのエネルギーです。地域に愛される駅になるよう努力してまいりますので、ぜひ駅に足をお運びください。

暮らしと共にある

羽鳥駅の物語。

交通拠点である羽鳥駅は、日々の暮らしを支えながら、日常に溶け込んだ空間となっています。遠くの山々を眺めるビューポイント。駅の東西を行き来する散歩コース。安全を願う人々の姿。羽鳥駅付近にお住いの3名の方に話を伺いました。

私と羽鳥駅

茜色の筑波山

昭和30年に嫁いできた頃、駅前には炭や薪がたくさん積み上がり、貨物列車で運搬していました。駅周辺は山林で覆われていて、畑に1人で行くのが怖かったことを覚えています。

駅前商店街は、蕎麦店、青果店、精肉店、鮮魚店、自転車管理場、郵便局など、多様なお店が立ち並び活気がありました。

新しい駅舎の2階から見える、筑波山に夕陽が差し込んで茜色に輝く景色は本当に素晴らしいです。一度皆さんに見ていただきたい、私のお気に入りです。

平成3年に約30年ぶりに復活した羽鳥祭りは、子どもたちが笛や太鼓を演奏する、大切な活躍の場です。新型コロナウイルスの影響で2年間開催できていません。新しい駅舎になって初めてのお祭りを、今年こそ開催できることを祈っています。



駅前商店街で電気店を営んできた、真家美奈子さん

私と羽鳥駅

バリアフリーの実現

以前、大病を患い東京の病院まで電車で通うとき、階段を昇り降りすることができず、大変な思いをしました。その経験から、東平区長に就任した平成19年以降、橋上化によるバリアフリー実現のため、区長会を通じて要望活動を行い、市、JRに働きかけてきました。それから10年以上かかりましたが、ちょうど東平区でも高齢化が進んできたので、エレベーター設置によるバリアフリー化が実現して本当によかったと思います。

私たち周辺住民の散歩コースにもなっています。ベンチでひと休みして電車を眺めるのも、楽しみの一つです。



羽鳥駅橋上化を願い尽力してきた、前野恵美子さん

私と羽鳥駅

いつまでも愛される駅に

羽鳥駅踏切近くの東平区東本町は、安全祈願のため毎年7月初旬に踏切のお地藏さんの供養を行っています。僧侶に頼んで、50年以上も続けています。

旧駅舎は通学で毎日使っていました。中でも駅の伝言掲示板は、当時の連絡手段として活用されていて、誰かが書いたものを「どんな人が誰にあてて書いたんだろう」と想像したりして友達と盛り上がっていました。青春時代の思い出です。次男は幼い頃電車が好きで、毎日線路まで散歩したのも良い思い出です。

私の人生のそばにいつもある羽鳥駅。これからも地域の皆さんに愛されまうように。



羽鳥駅東口拠点整備等検討委員 野手利江さん



タウンジャーナル小美玉の羽鳥駅特集記事ページはこちら ▶

タウンジャーナル小美玉 羽鳥駅特集

タウンレポーター 瀧澤比佐乃さん

私は羽鳥駅のすぐ近くで育ちました。時代ごとに変化してきた駅周辺の様子を何かの形にして皆さんに紹介したいと思い、「羽鳥駅の今むかし」(全4回)という記事を書きました。地域の皆さんからたくさんのお話を伺い、一緒に記事を制作しています。過去、現在そして未来、このまちに多くの人の思いが寄せられていることを改めて知り、私にとっても貴重な経験となりました。

TJOは、何気ない日常の中に素敵な魅力を発見して発信しています。あちこちへ取材に行き、さまざまな人との出会いがあり心が通う感動があります。これからも、市内の皆さん一人ひとりにスポットライトを当てられるようがんばりたいです。

心の玄関口となる駅

熱気と期待にあふれる現場

2011年から羽鳥駅周辺の将来整備計画に関わらせていただきました。特に羽鳥駅東口拠点整備等検討委員会の検討会議は、羽鳥駅の橋上化によって東口・西口がつながり、日常的に市民が交流できるようになることへの期待で議論が白熱し、会議室の温度が上がっていく感じがしました。

ワークショップは、市民と行政が協働して多様な人々の憩いの場を作ろうという強い想いを感じました。「家に帰ってきただなあ」と安心できるような場を創ろう」という意見が印象に残っています。

モザイクアートに込めた想い

壁面デザインの時に真っ先に浮かんだことは、市民が積極的にまちづくりに関わる姿と、ふるさとに対する愛着と誇りでした。そこで、市民参画によるデザイン開発と施工段階の市民参加を企画。市民参画のデザイン開発のために、コンセプトに関する投票を行い、小美玉市への想いを抽出しました。

市民の想いをひとつも取りこぼさないようにデザインすることを目指しました。コスモス畑・田園・酪農風景・ダイヤモンド・筑波・霞ヶ浦・飛行場などなど、壁画のどこかに皆さまの心に響く小美玉市の情景がきつとあると思います。施工段階での市民参加は小さなタイルを並べて作るモザイクアート技法を採用しました。駅にいらした際には、壁画に近寄っていただき、ひとつひとつの小さなタイルが市民の手によって組まれたということにちよびり想いを馳せていただければ幸いです。

駅が存在がまちを活性化

駅は陸の玄関口です。東口と西口間の人流だけでなく、市外からの人の往来も促します。それにより文化活動や経済活動が活発になり、まちが活性化します。壁面デザインで表現したように、小美玉市には誇れる地域資源が盛り沢山です。羽鳥駅がまちを活性化させ、手づくりの壁画がふるさとにつながる心の玄関口にもなることを願っています。

生田目 美紀

国立大学法人筑波技術大学 産業技術学部 教授。
大学では、聴覚に障害のある学生に情報デザインを教える。日本デザイン学会副会長。
博士(感性科学)・修士(芸術学)筑波大学。
1999年筑波技術短期大学講師を経て2005年筑波技術大学教授。現在に至る。
専門分野はユニバーサルデザイン。
2011年小美玉市羽鳥駅周辺まちづくり検討委員会委員。2016年羽鳥駅東口拠点整備等検討委員会委員として羽鳥駅周辺の将来整備計画等に関わる。2018年からJR羽鳥駅東西自由通路北側壁面のデザインに取り組む。



羽鳥駅に掲げているモザイクアート壁画
上: 霞ヶ浦から望むダイヤモンド筑波 下: 牧場・コスモス畑・茨城空港